

市町村指定文化財取材票 <表>

取材日	2023年	11月	26日	(記入者) 山口 惠一	
取材参加者	石井	西田	東辻	宮本	本井
	山口				
取材対象先	宇陀市：旧旅籠「あぶらや」の主屋(しゅおく)				

所在地	宇陀市榛原萩原 2 6 7 2 - 1				
所有者（取材対応者）名	取材対応者 * * * 様(個人情報守秘)	所有者（連絡先） 宇陀市			
	(宇陀市シルバー人材センター会員)	0745-82-3976(文化財課) 0745-88-9418(あぶらや)			
取材申込	申込先・行政名など：宇陀市教育委員会事務局文化財課 * * * 様				
市町村指定文化財	彫刻	軀	名称（指定年月日）		
	建造物	1 棟	旧旅籠「あぶらや」主屋 2009(平成21)年6月26日指定		
文化財指定理由	木造2階建、棧瓦葺、庇付き切妻造で、江戸時代後期～末の建築と考えられ建物主屋の正面開口部、玄関北側（右側）及び2階への昇降経路等建物の一部に改修の痕跡を認めるが、宇陀市内には江戸時代から続く旅籠の建物は数が少なく、伊勢参詣が隆盛を極めた頃の面影を今に伝える数少ない遺構として貴重なため。参考資料 『宇陀市/宇陀市歴史文化館 旧旅籠「あぶらや」』				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	消防法に規定する文化財であるため、自動火災報知設備が設置されており年2回の点検や消防署による実地検査がされている。	宇陀市の直接管理下に置かれている建物で、日中管理人も居られ対策に問題はないと感じた。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	スズメバチの巣の除去程度のもので、小動物の侵入やノミ等により被害も確認されていない。	日中管理人も居られ、市街地に建っているため獣害と言うようなものは無いと感じた。
保存～継承へ苦労と今後の課題と対策	「あぶらや」の立地場所は、伊勢本街道と、あを(阿保)越え(伊勢表街道、初瀬街道)の分岐点で札の辻にあたり街道の要所となっている。取材に対応してくれた方によると、往時の「あぶらや」の規模は、現在保存されている建物の6倍の規模であった。また、当地は地下水位が高く、その結果土間に掘られた井戸には豊富な水があり、25基ほどの五右衛門風呂が設置でき多数の宿泊客をもてなすことができた。しかし、現在も激しい降雨時には土間に水がにじみでてくることもあるため、その水の排水には土間のへこんだ部分に水を溜め、雑巾で水を吸い取る作業を行うという苦労があると言われていた。また宇陀市からは運営費としての人件費、光熱水費及び建物の修繕費が嵩んでくると言われていた。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題（修復、維持、管理、環境など）

教育委員会文化財課が中心となり、宇陀市歴史文化館として公開され、宇陀市シルバー人材センター協力のもと管理がしっかりと行われている。文化財は今後とも地域の宝であるため、宇陀市からも適切な維持管理を続けていくためには、公民連携や継続的な民間からの支援など、応援していただくことが不可欠になってくると言われると言われていた。今後とも宇陀市、地域住民及び拝観者などの協力と理解のもと、この貴重な文化財を後世に伝えていきたいと思った。

市町村指定文化財取材票 《裏》

取材日	2023年	11月	26日	(記入者) 山口 惠一	
取材参加者	石井	西田	東辻	宮本	本井
	山口				
取材対象先	宇陀市：旧旅籠「あぶらや」の主屋				

※ 写真撮影許可済

文化財指定名 旧旅籠「あぶらや」主屋

文化財：旧旅籠「あぶらや」主屋 正面及び北東面から



1階部分

2階部分

街道の道標と太神宮燈籠



京都仁和寺より寄贈された太神宮燈籠

道標
右いせ本かい道
左あをこ江みち

土間に掘られた井戸

へこみの多い土間

夕食御膳配置例

文化財の由緒などを記入

宇陀、榛原の歴史と往時の姿

宇陀市榛原萩原にあり、伊勢本街道とあを（阿保）越え（伊勢表街道・初瀬街道）の分岐点で札の辻に位置し、古くから交通の要衝として栄え萩原宿の中心にあり、明治10年頃まで旅籠を営んでいた。その前身は、屋号「あぶらや」からも判るように油業を営み、かつては主屋の西北部から接続して2階建の客室があり、主屋より渡り廊下で結ばれていた。旧旅籠「あぶらや」古図では、主屋南側が家族の住む住宅となっている。地下水に恵まれ、浴槽(五右衛門風呂)が25基ほどあり、一晩に100人～120人宿泊でき、伊勢参りの方、初瀬詣での方が一同に会して食事をし、大いに賑わったとのこと。
参考資料『宇陀市/宇陀市歴史文化館旧旅籠「あぶらや」』『榛原町/はいばらの伊勢街道 平成3年』

宇陀は奈良県の中央東部に位置し、宇陀山地とよばれる山間地域で、榛原・大宇陀・菟田野の3町と室生村が、2006(平成18)年に合併して宇陀市となる。近世に入り、萩原(宇陀市榛原区)は、伊勢本街道とあを(阿保)越え(伊勢表街道・初瀬街道)の分岐点に位置し、伊勢参り、初瀬詣でなどの宿場町として賑わう。文政のおかげ参りでは1830(文政13)年3月20日から29日まで10日間に228万1,000人(1日平均22万8,100人)が詣でた。高取藩植村家も伊勢表街道を使って参勤交代で通過した。「あぶらや」の近くには「あわや」「江戸屋」「いたこや」「井谷屋」などの旅籠があった。
参考資料『奈良県の歴史散歩④奈良南部 山川出版社2014年1月発行』『榛原町/はいばらの伊勢街道 平成3年』